

MASSA-R



2014 鈴鹿8時間耐久ロードレース
ご協賛のお願い



オヤジたちの「本気」。

現在のバイクブームを牽引しているのは、
40代から50代。
この世代が只の「オヤジ」と見られるか、
「勢いのある世代」と見てもらえるか。
それは各々が、日々どんな行動(アクション)を
起こしているかにかかっている。

同世代に「まだまだやれる」勇気と希望を、
若者世代に「自分もやってやる」という情熱を。

そんなコンセプトを掲げ、このたび40代の
ショップ代表4名にてチームを結成し、
鈴鹿8時間耐久に挑戦する運びとなりました。

この「オヤジ」たちの「本気」の挑戦に、
ご支援・ご協力いただければ幸いです。

TEAM MASSA-R
チーム代表 茂木 正人

「鈴鹿8耐」とは？

「鈴鹿8耐」とは？＝ 正式名称は「鈴鹿8時間耐久ロードレース」

1978年から30年近く開催されており、世界中の各国を転戦する 世界耐久選手権シリーズのうちの1戦でもある。「MOTO GP」(※いわばオートバイ版の「F1」)に参戦するワールドクラスの選手や、全日本選手権のトップライダーをはじめ、バイクショップチーム(プライベーター)など、多種多様なライダーが参戦する耐久レース。

真夏の鈴鹿を、8時間でコースを何週出来るかという過酷なレース

8時間という通常レースの10倍以上の時間を走るため、1人で走るのではなく、1台のマシンを2人～3人のライダーが交代しながら走る。近年8耐では、日中の最高気温は35度を超え、路面温度は60度を超える。この人間にとってもマシンにとっても過酷な環境下で、8時間のうちにコースを何週できるかで順位を競いあう。

メカニックの力、スタッフのチームワークも非常に重要

耐久レースにおいては、給油やタイヤ交換の作業時間をいかに短くするか、どのタイミングでピットインさせるかなどのレース構成等、組織の団結とチームワークを最も必要とする。

さらには事前のマシン製作も、最も重要な要素のひとつである。各ライダーが、スプリントレースなみの速さと安定性で8時間を走り切れるマシンを製作しなければならない。ライダーの転倒のリスクもさることながら、毎年相当数のチームが マシントラブルでリタイヤを余儀なくされている。したがって、鈴鹿8耐を「完走」すること自体に、大きな意味が生まれるのだ。

メディアの露出が多く、イベント性の高い 華やかなレース

ホンダ、ヤマハ、カワサキ、スズキの国内4大メーカーに加え、BMW、ドゥカティ、KTM、アプリリアといった海外メーカー、またワールドクラスのライダーも参戦するため、国内メディアだけではなく 海外のメディアでも大きく取り上げられる。

レースと同時進行して、場内では様々な企画が催されるため、ファミリーでの来場も多い。特に昨年は往年のレジェンド・ライダー「ケビン・シュワーツ」の参戦もあり、来場者は6万人を超えた。また現地で観戦できないファンのために、BS放送による生中継も行われている。モータースポーツ誌でも大きく取り上げられ、国内のオートバイレースの中では最もメディアへの露出が多いレースのひとつである。



第1ライダー 茂木 正人 (Mogi Masato) バイクショップ「茂木二輪工房」 代表

1967年生まれ・47歳。群馬県出身。

18歳でレースデビューし、22歳でジュニア昇格、24歳で国際昇格。
その後活動休止して以降41歳にして、13年ぶりに鈴鹿のレースに出場
(鈴鹿4時間耐久レース)。その後国際ライセンスに再昇格し、43歳にして
16年ぶりの鈴鹿8耐出場を果たす。MFJ公認インストラクターとしても活躍。
2013年、オートバイショップ茂木二輪工房をオープン。

<主なレース実績>

- 1985 筑波サーキットでRZ250RRでレースデビュー
- 1990 全日本選手権RRジュニア250クラス ランキング3位
- 1991 国際A級昇格 全日本選手権250クラス参戦
- 1992～94 鈴鹿8時間耐久 出場
- 1995 一時レース活動休止
- 1997 T.O.T.(テイストオブ筑波)にてレース再開
- 以降 毎年筑波・もてぎのイベントレースに参戦
- 2012 もてぎ7時間耐久ロードレース 優勝
- 2010～12 3年連続アプリリアRSV4にて鈴鹿8時間耐久 完走



第2ライダー 岡田 年晃 (Okada Toshiaki) 二輪総合サービス事業「ARS (アクティブレーシングサービス)」 代表

1970年生まれ・44歳。神奈川県出身。

16歳で二輪免許取得、大垂水峠では名の知れた峠小僧となる。
28歳でバイク熱が再燃しGPZ購入。2006年、36歳でZRX1200
フルカスタムに没頭。その後サーキットに目覚め、39歳でレースデビュー。
アラフォーの遅咲きレーサーながら、デビュー4年目・43歳にして国際ライセンス
を取得。念願の鈴鹿8耐参戦の権利を手にした。

<主なレース実績>

- 2009 筑波ツーリスト・トロフィー NMクラスにてレースデビュー
- 2010 筑波ツーリスト・トロフィー 参戦(マシン:Aprilia RSV4)
- 2012 筑波ロードレース選手権、もてぎロードレース選手権 参戦
- 2013 筑波ツーリスト・トロフィーinMARCH GSX-R MASTERS 優勝
- もてぎロードレース選手権 JSB1000 ランキング3位
- もてぎロードレース選手権 オープンチャレンジ ランキング2位
- 鈴鹿4時間耐久ロードレース 参戦(マシン:ヤマハ YZF-R6)

第3ライダー 豊田 浩史 (Toyoda Hiroshi) サーキット走行サービス事業「D;REX」 代表

1968年生まれ・46歳。東京都出身。

長年のレース経験からバイク造りをはじめ、各種セットアップ、実践的なライディングアドバイスには定評がある。現在も現役でレース活動続ける傍ら、各メーカー(バイク・タイヤ)のサーキットインストラクターや講師等を務める。2006年よりサーキット走行全般のサービス業務、「D-REXサーキット・ライフ・スポーツ」を主宰し、サーキットライディングの普及に取り組んでいる。

<主なレース実績>

1989 レースデビュー

1994～97 レース活動に専念する環境を求め、筑波サーキットに勤務

2002 地方選手権(筑波、もてぎ、FISCO)フル参戦、タイトルを総なめ

2005～06 全日本ロードレース250ccクラス 参戦

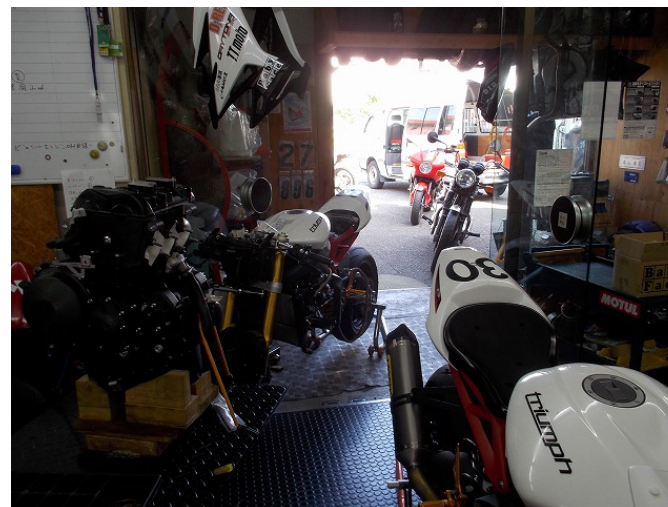
2009～10 全日本ロードレースST600クラス スポット参戦

2014 全日本ロードレースST600クラス 参戦予定

またT.O.T.(テストオブ筑波) 最高峰<HERCULES>クラスでは卓抜した速さで、5戦中4度の優勝・コースレコード樹立を果たしている。



ライダー & メカニック 紹介 (2)



メカニック 高山 康宏 (Takayama Yasuhiro) バイクショップ「T.T.MOTO」 代表

1967年生まれ・47歳。東京都出身。

フライス・旋盤などの工作機械を使用した、パーツ製作・修理・調整の経験を生かし、2000年より輸入バイクのショップにメカニックとして従事。

2006年よりT.T.MOTO設立。自社にて内燃機(エンジン)の修理・加工・チューニングを行い、外車・旧車からレース車両まで、幅広いオーダーに対応する。デイトナ・スピードウェイ(アメリカ)や、マン島T.T.(イギリス)等、海外レース経験も豊富。

<近年の主なレース実績>

2009～ もてぎ7時間耐久ロードレース参戦 (チーム:T.T.MOTO)

エンジン/車体制作・メカニック・ライダー担当

2012 全日本ロードレース ST600クラス フル参戦 (チーム:T.T.MOTO)

エンジン制作・メカニック担当

2012 T.O.T.(テストオブ筑波) 神楽月の陣

2013 T.O.T.(テストオブ筑波) 皐月の陣/神楽月の陣

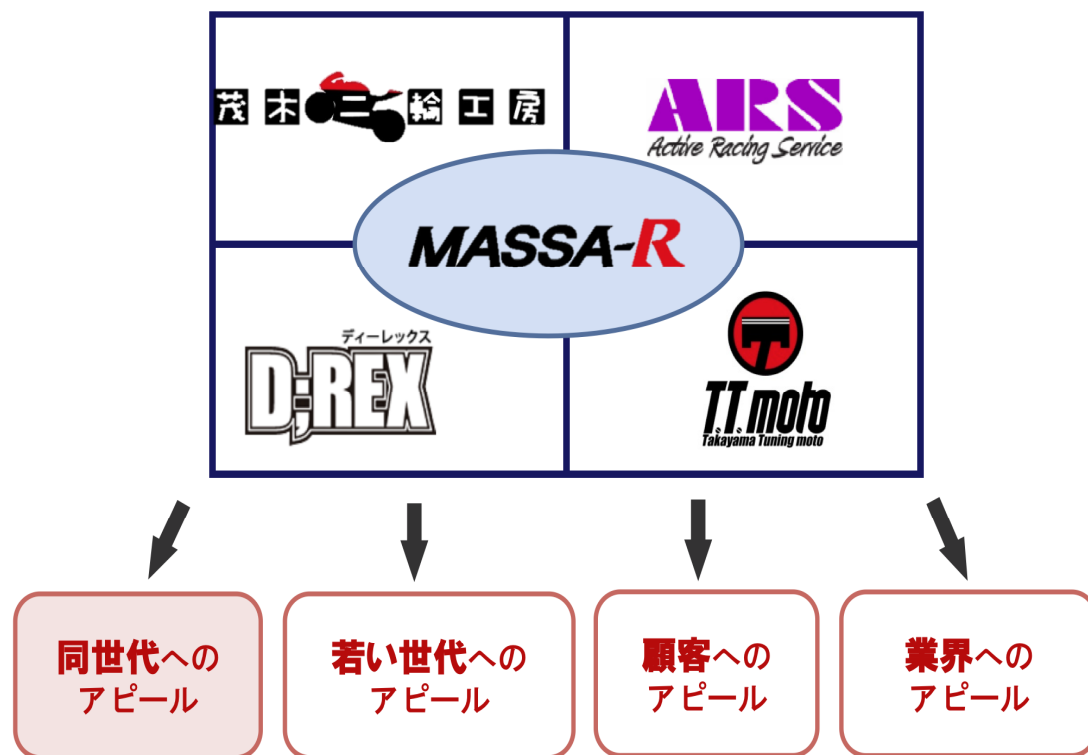
HERCULESクラス 優勝(3連勝)

(チーム:BORG&D:REXwith MERVERICK)

エンジン制作・メカニック担当

4ショップ結集のチームだからこそ 出来ること

「TEAM MASSA-R」 チーム体制



現在のバイクブームを牽引する40代～50代を中心に、幅広い層へアピールを図る

高い運営力・宣伝効果

4ショップの力を結集させ、チームの運営力を高めます。また、1ショップでは成し得ない宣伝効果を生み出します。

同世代への強いアピール

各ショップ代表が全員40代であることを敢えて「武器」とし、現在のオートバイブームを牽引する40～50代へのアピールにつなげます。

幅広い層へのアピール

さらに、若年層へのアピール・各ショップの顧客へのアピール・業界全体へのアピールにつなげます。

鈴鹿8耐参戦 ご協賛のお願い

< 必要経費 概算 >

	想定予算
● マシン(ヤマハ・YZF-R1)車両代 2台	¥3,000,000
● マシン改造費 2台	¥3,000,000
● マシンパーツ・消耗品、燃料代	¥1,000,000
● オイル代、タイヤ代(テスト走行分含む)	¥1,500,000
● ライダー装備品、スタッフ装備品代	¥500,000
● テスト走行代、サーキット往復交通費、宿泊費	¥700,000
● レースエントリー代、ピット設営費	¥300,000
合計	¥10,000,000



※人件費を省いても、8耐のスタートを迎えるまでに、最低でも上記の費用がかかります。

気合と根性で育った世代の我々が、今の若者達に見せつけてやれるものは、理屈や理論以上に、
「やってやる!」という気合と「負けないぞ!」の根性が まず大事であると思っています。

今年 オートバイ大好きなオヤジ達が集まり、世界選手権に挑戦します。真夏の暑さに負けない、熱い走りを行います!

4ショップの力を集結した「オヤジ」たちの「本気」の挑戦に、ご支援・ご協力いただければ幸いです。